

【報道関係者各位】
【マーケティング担当者様】

平成 21 年 6 月 23 日
株式会社 IMJ モバイル
東京都品川区西五反田 2-28-5
代表取締役社長 廣田 武仁

モバイルの新サービス・新技術に関する意識調査 ～i コンシェル、位置情報、スマートフォン、LTE～

株式会社アイ・エム・ジェイのグループ会社である株式会社 IMJ モバイル(本社:東京都品川区 代表取締役社長:廣田 武仁)は、「モバイルの新サービス・新技術に関する意識調査」を実施いたしました。

調査期間は 2009 年 6 月 5 日～6 月 6 日、有効回答数は 828 名から得られました。

【調査結果概要】

スマートフォンの発売や、通信技術の向上、新技術を利用したサービスなど、モバイルは日々進化を続けています。そのような携帯電話の新技術や新サービスをユーザーはどのように受け止めているのかを把握するため、「i コンシェル」、「位置情報サービス」、「スマートフォン」、またサービス開始が近づく「LTE」に対するユーザーの期待や利用実態について調査いたしました。

LTE: Long Term Evolution、スーパー3G、3.9G と呼ばれる高速データ通信の仕様。第 4 世代移動体通信(4G)の候補となっている技術を 3G の周波数帯で活用し、下り 100Mbps 以上/上り 50Mbps 以上の光ファイバー同等の高速通信を目指す。

「i コンシェル」継続利用意向は約 5 割

株式会社 NTT ドコモが 2008 年 11 月にサービスを開始した「i コンシェル」は約 6 割のドコモユーザーに認知され、約 2 割のユーザーに利用経験がありました。さらに、利用経験者の約 5 割に継続利用意向があり、未経験者(機能未搭載端末保有者を含む)の約 2 割に利用意向がある結果となりました。

GPS 端末保有者の約 6 割が位置情報サービス利用経験あり

GPS や基地局から得た位置情報に基づき提供されるサービス(位置情報サービス)の利用経験は、GPS 機能搭載端末保有者が未保有者を大きく上回る結果となりました。今後 GPS 端末の普及がさらに進むにつれ、位置情報サービスの利用も増加することが推察されます。

iPhone は広く認知、その他スマートフォンはイノベーター層に認知

iPhone の認知率が 8 割を超えたのに対し、Android、BlackBerry、Windows Mobile は約 2 割にとどまる結果となりました。しかし、認知者における購入意向率は、iPhone よりも其他スマートフォンの方が高いことがわかりました。

約 7 割のユーザーが通信速度の向上に関心

携帯の通信速度向上にユーザーは高い関心を持っていることがわかりました。さらに約 8 割のユーザーは、月額料金が変わらなければ通信速度が速い端末への切替えを志向する結果となりました。調査結果は、携帯キャリアが現在取組んでいる LTE などの通信速度のさらなる向上技術が、ユーザーに支持されることを示唆しています。

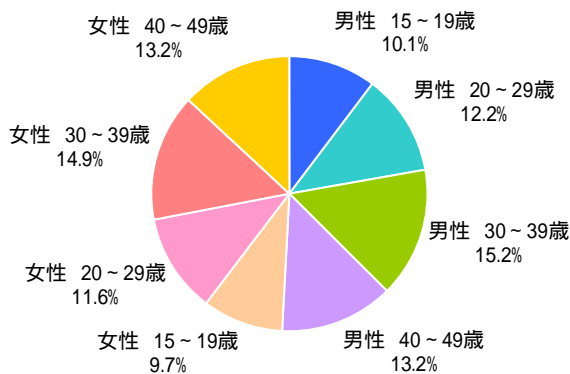
また、通信速度の向上はモバイルサイト閲覧機会の増加に寄与しており、タッチポイントとしての携帯電話の重要性は、今後ますます高くなることが推察できます。

【調査結果詳細】

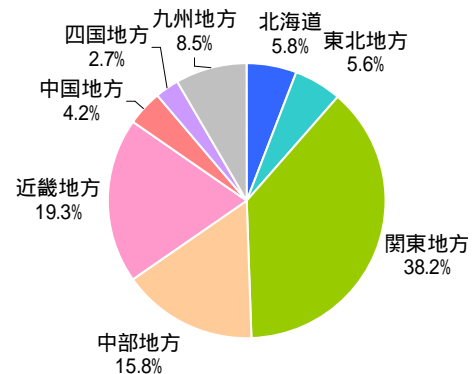
調査概要

- ・調査方法 : インターネットリサーチ
- ・調査地域 : 全国
- ・調査対象 : 15～49歳の携帯電話またはPHSを保有し、端末選定を自ら行った男女
調査会社が保有する調査パネル
- ・有効回答数 : 828 サンプル
- ・調査日時 : 2009年6月5日～6月6日
- ・割付条件 : 「平成20年12月総務省全国男女別推計人口」の性年代別比率に基づき
割付を行った

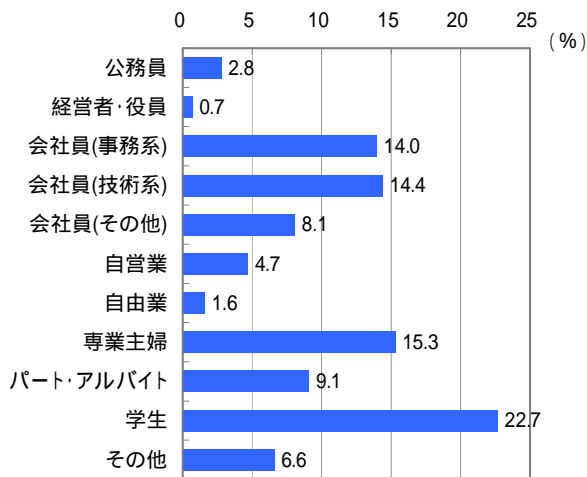
性年代 (n=828)



居住地域 (n=828)



職業 (n=828)



ケータイ 2 台以上保有率は 15%、2 台目ケータイは WILLCOM が 24% で最多

携帯電話または PHS の保有台数を尋ねたところ、2 台以上保有しているユーザーが 15%いることがわかりました。

主に利用しているケータイのキャリアは、「NTTdocomo (FOMA)」(39%) が最も多く、次いで「au (WIN)」(31%)、「SoftBank (3G)」(16%) であるのに対し、2 台目のケータイのキャリアは「WILLCOM」(24%) が最も多く、次いで「NTTdocomo (FOMA)」(23%)、「Softbank (3G)」(19%) となりました。

図 ケータイ保有台数 (単一回答)

【n=828】

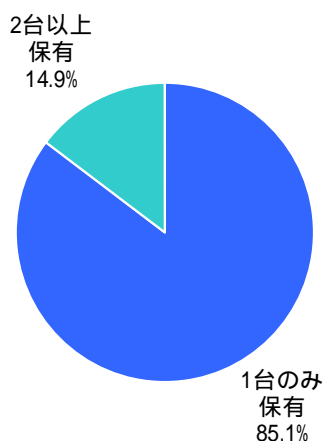


図 主に利用しているケータイのキャリア (単一回答)

【n=828】

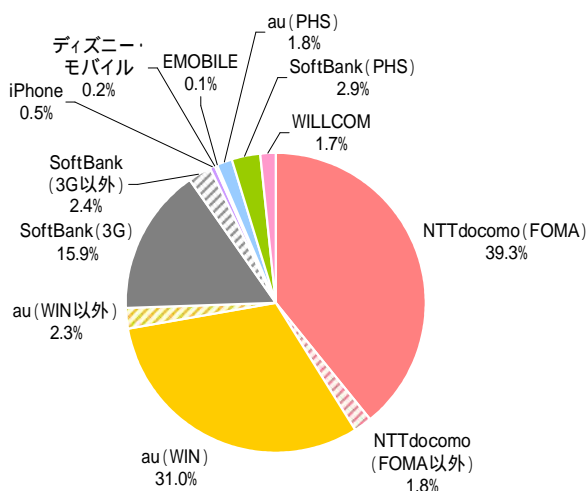
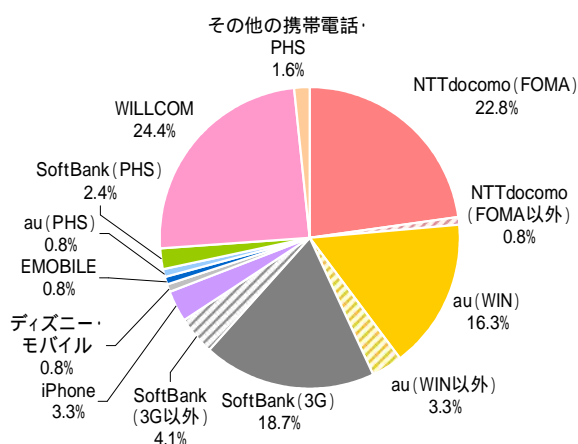


図 2 台目のケータイのキャリア (単一回答)

【n=123 2 台目保有者】



ケータイ：携帯電話または PHS

「i コンシェル」継続利用意向は約 5 割

NTT ドコモが提供する「i コンシェル」サービスについて尋ねたところ、ドコモ（3G）端末保有者の 65%に認知されており、そのうち利用経験者は 18%であることがわかりました。

また、「i コンシェル」サービス内容や利用料を説明した上で利用意向を尋ねたところ、利用経験者の 53%が「利用意向がある」と回答したのに対し、利用未経験者では 22%にとどまる結果となりました。

図 i コンシェル認知（単一回答）

【n=334 ドコモ(FOMA)ユーザー】

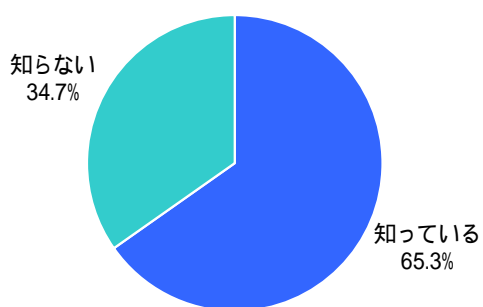


図 i コンシェル利用状況（単一回答）

【n=218 ドコモ(FOMA)ユーザーかつ i コンシェル認知者】

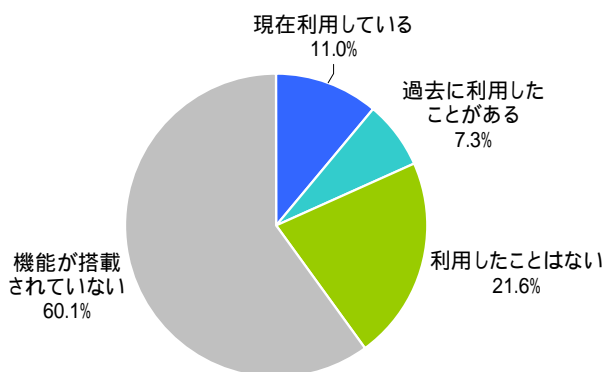
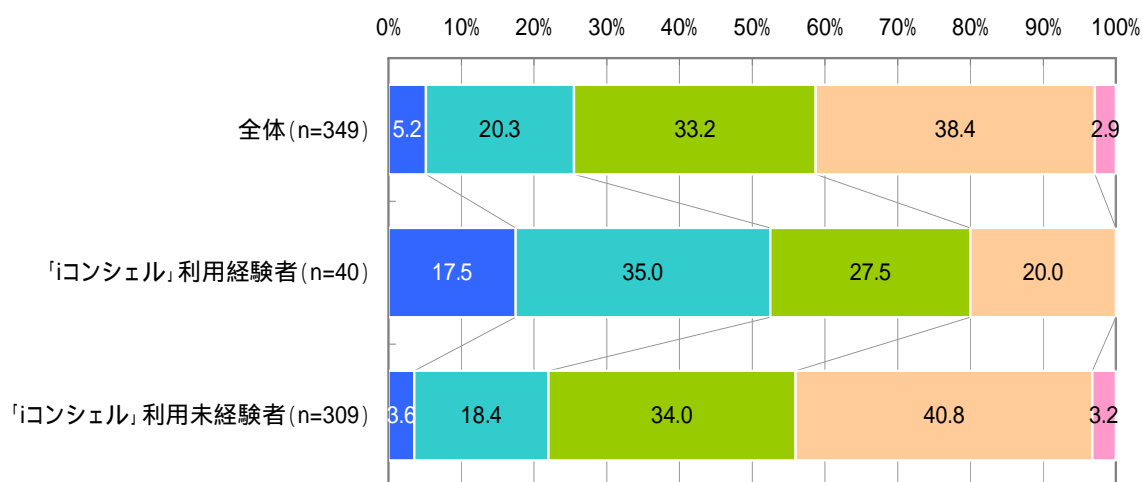


図 i コンシェル利用意向（単一回答）

【n=349 ドコモユーザー】

■ 利用したい ■ やや利用したい ■ あまり利用したいとは思わない ■ 利用したいとは思わない ■ わからない



GPS 端末保有者の約 6 割が位置情報サービス利用経験あり

GPS 機能搭載端末の保有状況を尋ねたところ、対象者の約 6 割が保有していることがわかりました。

また、GPS 機能や基地局から得られる位置情報に基づいたサービスを利用した経験は、GPS 機能搭載端末保有者の 59% が「ある」と回答したのに対し、未保有者は 23% と大きな差が見られました。

利用したことのあるサービスは「天気予報」(67%) が最も多く、次いで「目的地までのナビゲーション」(49%)、「飲食店などの周辺検索」(42%) となりました。

図 GPS 機能搭載端末保有状況 (単一回答) 【n=828】

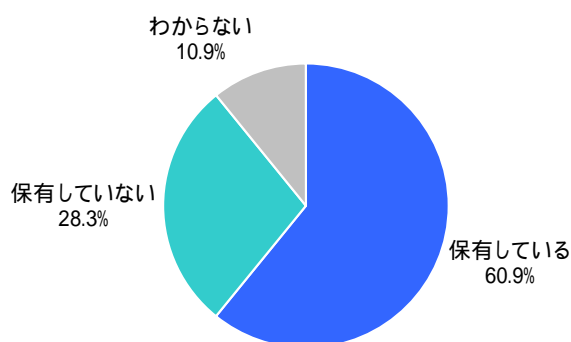


図 GPS 機能搭載端末保有状況別位置情報サービス利用経験 (単一回答) 【n=828】

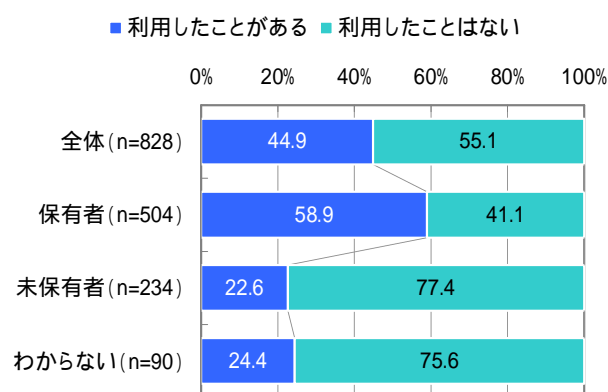
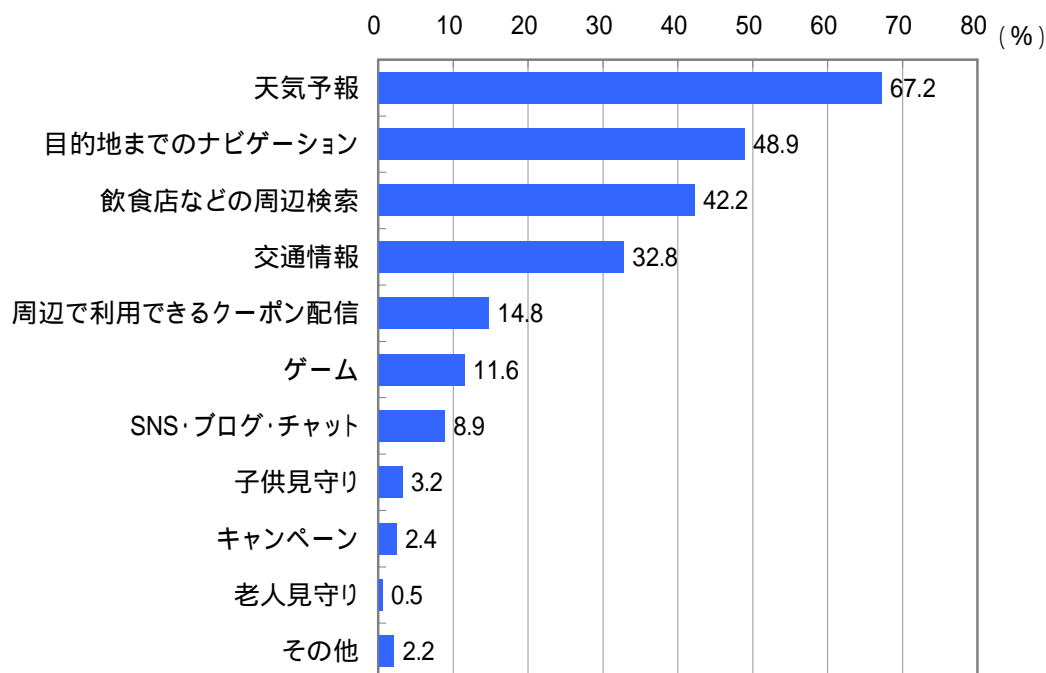


図 利用したことのある位置情報サービス (複数回答)

【n=372 位置情報サービス利用経験者】

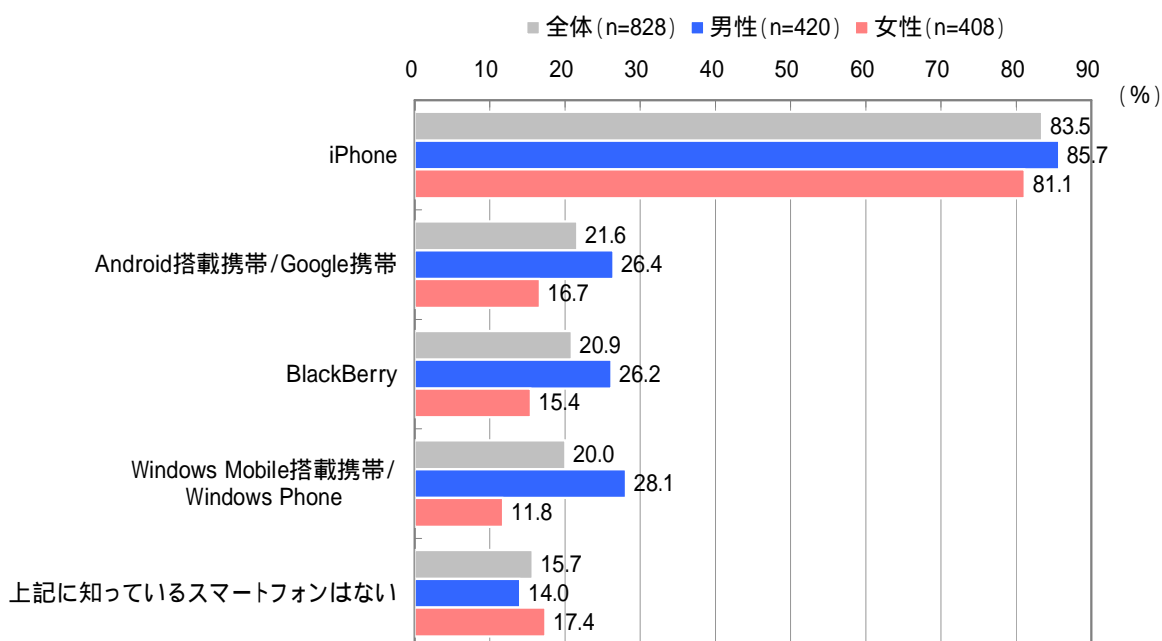


iPhone 認知率は約 8 割 Windows Mobile 認知率は男性が女性の約 2 倍

スマートフォン (iPhone、Android、BlackBerry、Windows Mobile) についての認知を尋ねたところ、「 iPhone (84%)」の認知が最も高く、「 Android (22%)」「 BlackBerry (21%)」「 Windows Mobile (20%)」を大きく上回る結果となりました。男女別に見てみると、尋ねたスマートフォン全てにおいて女性に比べ男性の認知度が高く、特に「 Windows Mobile」では 16 ポイントの差が見られました。

図 スマートフォン認知 (複数回答)

【n=828】



iPhone は広く認知、その他スマートフォンはイノベーター層に認知

各スマートフォンの購入意向について尋ねたところ、購入意向が最も高かったのは「Windows Mobile」(22%)、次いで「Android」(18%)、「BlackBerry」(13%)、「iPhone」(12%)となりました。

スマートフォン認知者の情報感度を見てみると、「iPhone」認知者は全体と比べても大きな差異は見られませんが、その他スマートフォン認知者は「自分なりの情報収集方法がある」や「情報を人より早く入手しよう心がけている」が全体より10ポイント以上高いことから、イノベーター層であることがわかります。

広く認知されている「iPhone」に対して、その他のスマートフォンは、新しいものを買うモチベーションが高いイノベーター層の認知に留まっているため、購入意向率が高いと推察できます。

図 スマートフォン認知者の購入意向（単一回答）

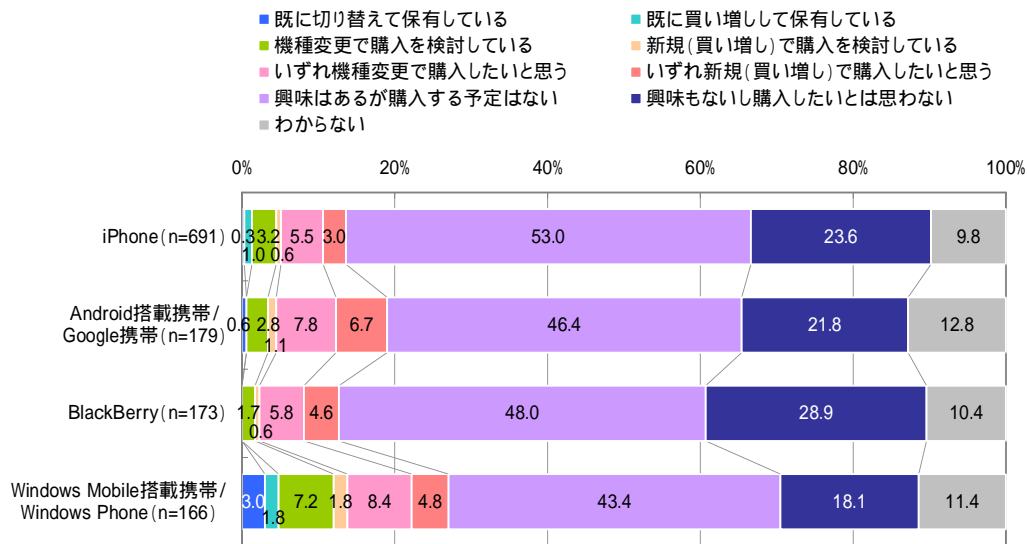
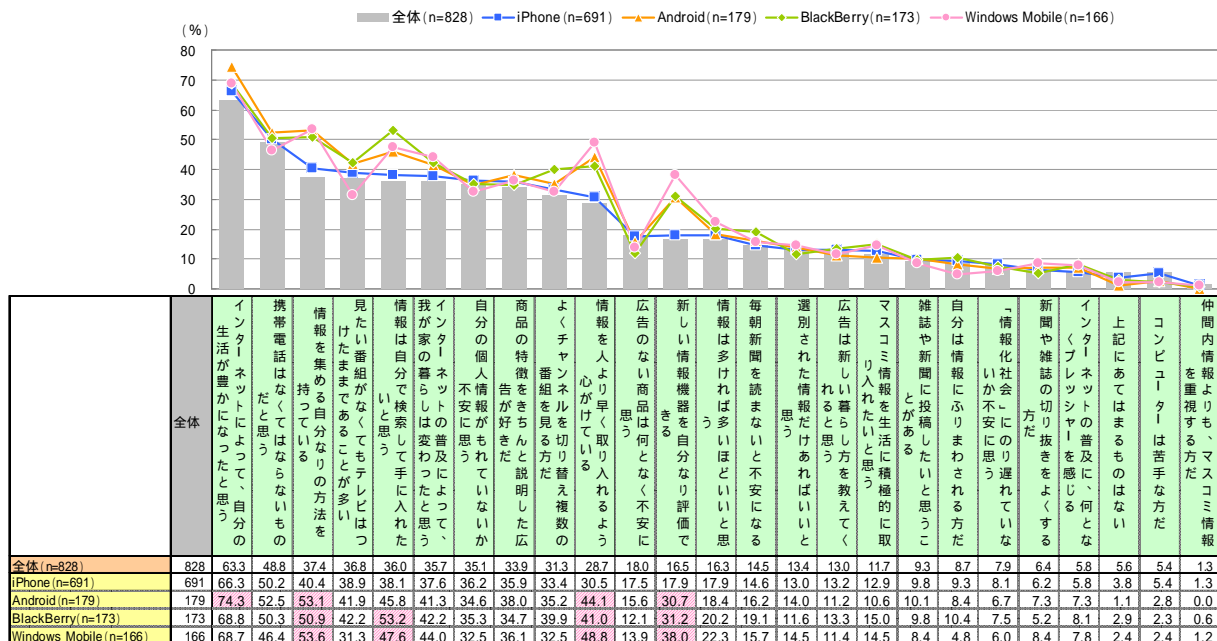


図 スマートフォン認知者と全体の情報感度（複数回答）



は全体 + 10ポイント以上、 は全体 - 10ポイント以下

約7割のユーザーが通信速度の向上に関心

携帯電話各会社が研究開発を進めているLTE(*)についての説明を表示し、通信速度が向上することに対しユーザーはどの程度関心を持っているか尋ねたところ、68%のユーザーが「関心がある」と回答する結果となりました。また、新規購入や機種変更の際に通信速度の早い端末を選ぶかとの質問には、「月額利用料が上がっても選ぶ」との回答が5%、「月額利用料が変わらなければ選ぶ」との回答が78%となりました。

通信速度の速い端末を保有した際にモバイルサイトを閲覧する機会がどう変化するかを、普段のモバイルサイト閲覧頻度別に見てみると、「増える」との回答は、モバイルサイトを「ほぼ毎日」閲覧しているユーザー（74%）が最も多いことがわかります。モバイルサイト閲覧頻度が低いほど、閲覧機会は変わらない傾向があるようです。

図 通信速度向上に対する関心（単一回答）

【n=828】

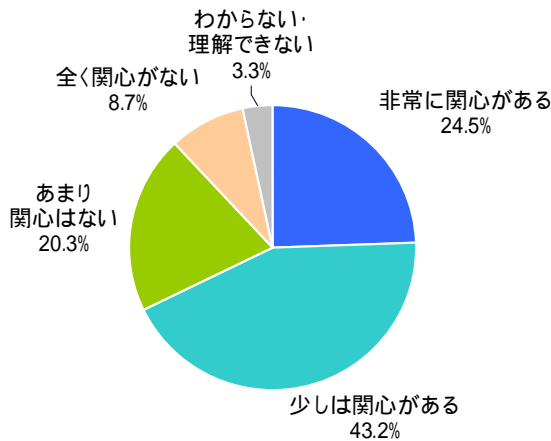


図 通信速度の速い端末の選択意向（単一回答）

【n=828】

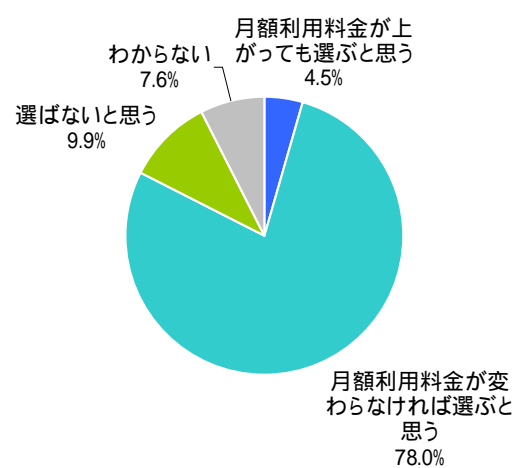
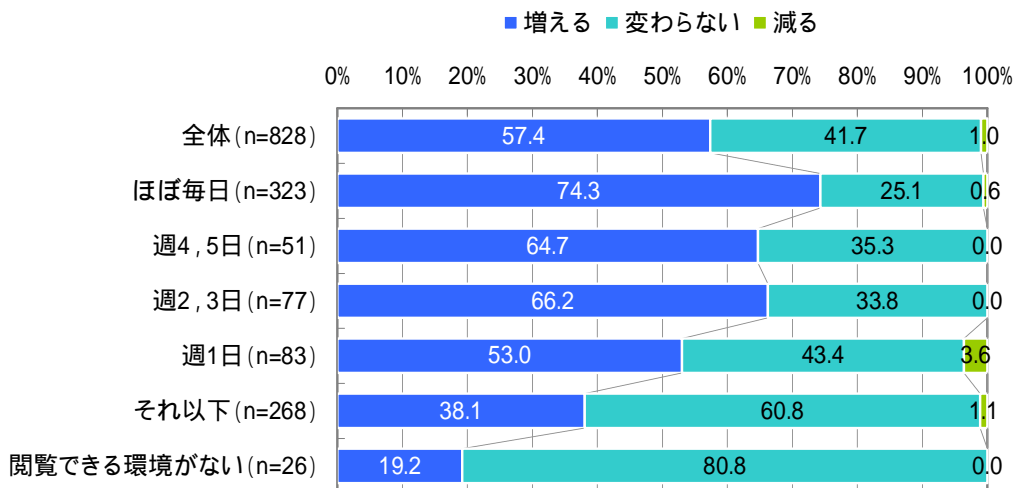


図 モバイルサイト閲覧頻度別の通信速度の速い端末を保有した際のモバイルサイト閲覧機会の変化（単一回答）

【n=828】



(*)LTE:「通信におけるダウンロード速度が100Mbpsにも達する次世代携帯電話の通信規格であり、これは、現在のFTTH(光インターネット)にも匹敵する通信速度となる」と回答者に表示。

ケータイの国際化、約4割のユーザーが実現を希望

ケータイの技術やサービスについて実現の希望を尋ねたところ、『携帯電話の国際化』は41%、『サイト閲覧履歴などを活用した情報提供』は31%、『位置情報を活用した情報提供』は48%のユーザーが「実現してほしい」と回答する結果となりました。

図 ケータイ技術・サービスに対する期待（単一回答）

【n=828】

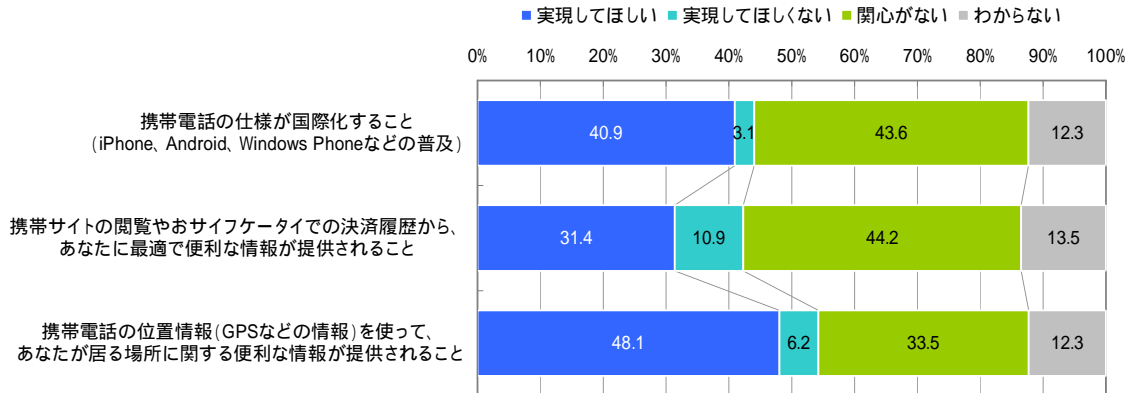


表 ケータイ技術に対して「実現してほしい」「実現してほしくない」理由

携帯電話の仕様が国際化すること		
実現してほしい	海外旅行に行ったときに連絡がとれなくて不便だったから	17歳 男性
	外資携帯端末の普及、活性化により、端末代の低価格化がきたいできること。	28歳 男性
	国際化して統一化されたほうがより良いサービスを提供してもらえそうだから	29歳 男性
	世界中のケータイメーカーの端末から選べるようになるから	44歳 男性
	日本の携帯メーカーにグローバルスタンダードを作ってもらって、海外でも国内でも変わりなく使えるようにしてほしい。	27歳 女性
	旅行の際も、気軽に連絡が可能で、問題が生じた際も安心だから。	31歳 女性
実現してほしくない	国際化することによって、日本独自の機能などがおろそかにされるのが困る	33歳 男性
	現在の仕様が使い慣れていることが一番の要因です。またそれ以外にも日本の物が一番丁寧な仕様となっていると考えておりますし、使いやすさで言えば恐らく日本独自のものの方が良いと感じるためです。	22歳 女性
携帯サイトの閲覧やおサイフケータイでの決済履歴から、あなたに最適で便利な情報が提供されること		
実現してほしい	クーポンなどが自動的に取得出来たら便利。	18歳 男性
	家計を一括管理できるから	30歳 男性
	自分の知らない情報を知ることができそう	46歳 男性
	自分では気付かないような便利な情報を教えてくれそうだから。	19歳 女性
	購入するもの = 関心のあるものなので、色々自分で検索をしなくても情報がくるのは嬉しい	24歳 女性
実現してほしくない	情報が履歴としてネットに残るのは怖いから。	16歳 男性
	携帯を紛失した時の影響が心配	26歳 女性
	決済履歴から情報が提供されると、自分の情報が全て監視されているような気がするから	35歳 女性
携帯電話の位置情報(GPSなどの情報)を使って、あなたが居る場所に関する便利な情報が提供されること		
実現してほしい	旅行先で地理に詳しくなくても便利な情報が手に入るから。	19歳 男性
	近くの飲食店などの情報やクーポンが手に入ったら便利だと思ったので。	24歳 男性
	車にはナビがついているが、歩(時)には無いから。	38歳 男性
	知らない土地の道やお店の情報がわかると便利だから。	26歳 女性
	その場その場で、ランチタイムやショッピングなどのクーポンがもらえれば便利で嬉しいです。	46歳 女性
実現してほしくない	監視されているようで不気味	32歳 男性
	万が一情報が流出して、いつ自分がどこにいたのか赤の他人に知られたら気分が悪いから。	18歳 女性
	場所に関する便利な情報が、常に自分がほしい情報とイコールではないから。	36歳 女性

【株式会社 IMJ モバイル 会社概要】

株式会社 IMJ モバイルは、携帯に関する調査・診断・企画・開発・制作・運用に関する豊富なノウハウにより、携帯の BtoB 及び、BtoC サイトを提供しており、国内最大級の実績とリソースを保有するモバイルインテグレーターです。

現在では、コマース事業、サイト調査・診断事業、QR コード、フェリカ、IC タグ関連の技術開発及びソリューションの提供を多くの企業様に提供しており、企業様を対象とした携帯サイトの公式化支援事業にも力を入れております。

社名	株式会社 IMJ モバイル
本社	東京都品川区西五反田 2-28-5 第 2 オークラビル
URL	http://www.imjmobile.co.jp/
設立	2000 年 7 月 18 日
資本金	3 億 963 万 7500 円 (2008 年 12 月現在)
従業員数	331 名、グループ従業員数 519 名(2009 年 3 月現在)
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・携帯公式サイト企画・運営事業 ・携帯メディア、広告事業 ・携帯サイト構築・運営代行事業 ・携帯ソリューション事業、等

< 本件に関するお問合せ先 >

株式会社 IMJ モバイル <http://www.imjmobile.co.jp/>

調査に関するお問合せ

市場調査室

担当：森・嶋田

TEL：03-5759-0188 E-mail：jk@imjmobile.co.jp

報道関係者のお問合せ先

広報 IR グループ

担当：森竹

TEL：03-5759-0177 E-mail：press@imjmobile.co.jp